

令和5年度
舞台芸術等総合支援事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援)

自己点検報告書

団体名	公益財団法人可児市文化芸術振興財団	
施設名	可児市文化創造センター	
助成対象活動名	まち元気プロジェクト～「えがお」の劇場～	
助成期間	5	(年間)
内定額	53,044	(千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

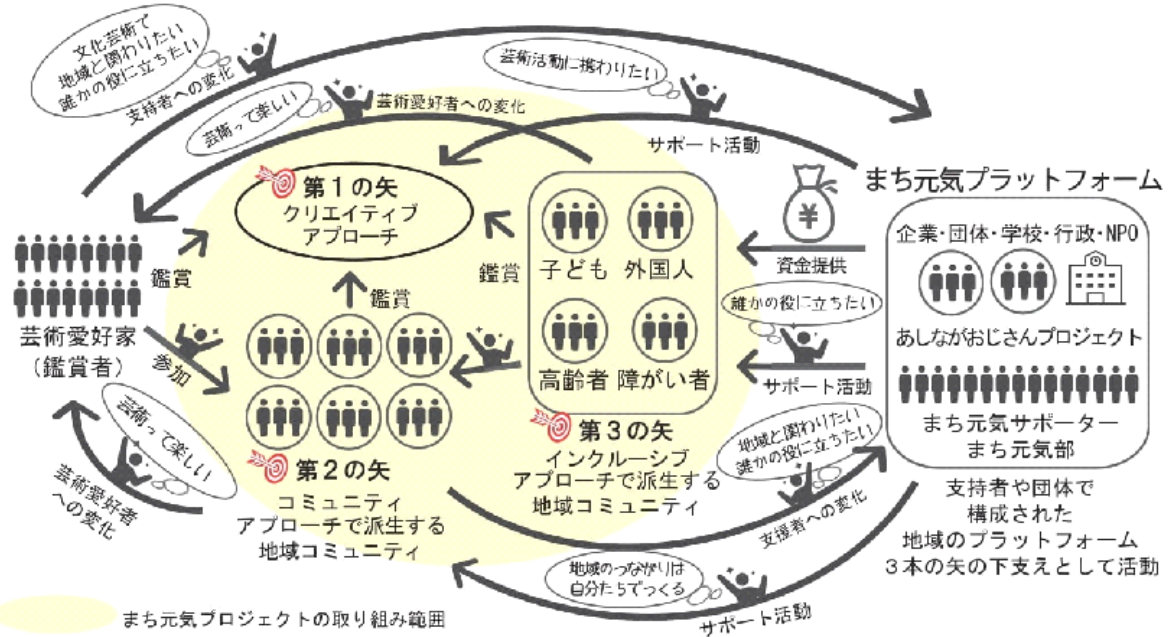
全体図（概念図）

事業名：まち元気プロジェクト～「えがお」の劇場～

【私たちが目指す劇場経営モデル】

3本の矢によるアプローチと「まち元気プラットフォーム」を連動させることで、人々に変化を促し、「活力」と「つながり」を社会に醸成していきます。またそれは劇場の鑑賞者や支持者開発にも繋がります。

事業収益の増加
資金調達環境の向上
社会的コスト・受益者負担の軽減



第1の矢：アウトカム①『多様性と共創性を育み、感動と生きる希望を生み出す舞台芸術の創造発信』

<p>地域から全国へサポーターと共に創る舞台芸術</p> <ul style="list-style-type: none"> ●プロの創作現場を市民が支える地域ならではの創造環境の確立 ●東京一極集中からの脱却 	<p>日本国内トップクラスの芸術団体との地域視点契約</p> <ul style="list-style-type: none"> ●質の高い舞台芸術の鑑賞機会の提供 ●地域密着型マーケティングによる ●芸術団体と市民との関係性の構築 	<p>英国を代表する劇場とのユース世代との演劇国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ●英国リーズ・プレイハウスとの日英ユース国際交流事業の実施。 ●英国リーズ・プレイハウスによる青少年向けワークショップの実施
<p>青少年を始めとする幅広い世代に向けた鑑賞機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子どもから大人まで誰もが舞台芸術を楽しめる観客の裾野の拡大 ●各年代のニーズに寄り添うプログラム提供 	<p>市民に寄り添うマーケティングの実施提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ●当日ハーフプライスなど多彩なチケット販売システムによる顧客の裾野の拡大 ●パースデーサプライズやアフタートークなどによる特別な一日を演出する思いづくり 	<p>鑑賞モニターとの意見交換や鑑賞コミュニティの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公募して集めた市民による鑑賞モニターとの意見交換 ●出演者と観客の交流促進の実施

第2の矢：アウトカム②『人と人とがつながり合い、互いにエンパワメントされる豊かな地域社会の実現』

<p>市民活動の発表の場の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ●専門性の高い設備と管理運営実施 ●市民利用の広報宣伝協力 ●施設利用者アンケートによるサービス強化 	<p>市民参加型公演の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●一流の演出家との創作で、芸術活動の活性化を促進 ●参加者同士の絆を深め、最高の思い出 	<p>市民向け講座&アウトリーチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●幅広いジャンルのアーティストによる定期的な講座やワークショップによる芸術活動の活性化と地域コミュニティの創出
<p>学校向けアウトリーチ&研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ●児童・生徒の想像力を刺激する芸術プログラムの開発 ●コミュニティアーツワーカー育成 	<p>劇場を知るための各種体験プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ●バックステージツアーの実施 ●舞台、照明、音響などの各種体験プログラムの実施 	<p>ユース世代の実演芸術の学びと挑戦の場の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ●青少年の健全育成のためのユースシアターおよび各種体験プログラムの実施。

(2) 令和5年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要	入場者・参加者数 (人)	
		主な実施会場	(演目、主な出演者、スタッフ等) (演目、主な出演者、スタッフ等)		
1	ala Collection シリーズ vol.14 『フットボールの時間』 可児・東京公演	10/18 (水)～10/22 (日) 10/26 (木)～11/1 (水)	作：豊嶋了子と丸高演劇部 潤色・演出：瀬戸山美咲 出演：堺小春、井上向日葵、庄司ゆらの、谷川清夏、北原日菜乃、桜木雅、林田麻里、おかやまはじめ、近江谷太郎	目標値	1,380
		可児市文化創造センター 吉祥寺シアター		実績値	1,767
2	オーケストラで踊ろう！	3/2 (土)・3/3 (日)	構成・振付・演出：康本雅子 指揮：古谷誠一 演奏：可児交響楽団 出演：市民ダンサー、市民合唱隊	目標値	700
		可児市文化創造センター 主劇場		実績値	1,077
3	佐渡裕×新日本フィルハーモニー交響楽団	4月9日 (日)	指揮：佐渡裕 (音楽監督) ピアノ：及川浩治 管弦楽：新日本フィルハーモニー交響楽団	目標値	800
		可児市文化創造センター 主劇場		実績値	989
4	文学座公演『五十四の瞳』	9/8 (金)・9/9 (土)	作：鄭義信 演出：松本祐子 出演：たかお鷹、神野崇、越塚学、杉宮匡紀、川合耀祐、金沢映実、頼経明子、松岡依都美	目標値	400
		可児市文化創造センター 小劇場		実績値	472
5	シリーズ恋文 vol.13	11/25 (土)・11/26 (日)	演出：ラサール石井 構成台本：池内風 出演：中村雅俊、真野響子 ピアノ：黒木由香	目標値	400
		可児市文化創造センター 小劇場		実績値	538
6	森山威男 ジャズナイト 2023	9月16日 (土)	出演：森山威男、佐藤芳明、渡辺ファイアー、川嶋哲郎、田中邦和、中山拓海、魚返明未、富樫マコト	目標値	600
		可児市文化創造センター 主劇場		実績値	596
7	ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団 ニューイヤーコンサート 2024	1月8日 (月祝)	指揮：グイド・マンクージ ソプラノ：ベアーテ・リッター テノール：メルツァード・モンタゼーリ 管弦楽：ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団	目標値	800
		可児市文化創造センター 主劇場		実績値	975
8	新日本フィルハーモニー交響楽団メンバーによるオープン・シアター・コンサート	6月2日 (金)	1stVn：田村直貴、塩澤菜美、池田典子、吉鷹梨佐/2ndVn：佐々木絵里子、山崎恵子、甲斐涼太郎/Va：藤村もりの、山本珠理杏、Vc：植木昭雄、薄井信介/Cb：村松裕子、Per：川瀬達也、石井利樹	目標値	500
		可児市文化創造センター 主劇場		実績値	298
9	反田恭平プロデュース ジャパン・ナショナル・オーケストラ	8月28日 (月)	ピアノ・指揮：反田恭平 チェロ：水野優也 管弦楽：ジャパン・ナショナル・オーケストラ	目標値	800
		可児市文化創造センター 主劇場		実績値	1,020
10	平田オリザの「対話を考える」ワークショップ	7月28日 (金)	概要：演劇手法を活用した教職員向けコミュニケーション・ワークショップ実践講座 講師：平田オリザ 対象：市内小中学校4年目の教職員	目標値	30
		可児市文化創造センター レセプションホール		実績値	22
11	森山威男ドラム道場	4月～3月の毎週月曜	市内在住のジャズドラマー・森山威男氏を講師に迎え、その高度な演奏技術を学べる機会を提供するもの。	目標値	288
		可児市文化創造センター 音楽ロフト		実績値	246
12	アール未来の演奏家プロジェクト 2023	7/5 (水)～7/9 (日)	ヴァイオリン：菊池武文 ピアノ：下村彩葉 コーディネーター：佐野秀典	目標値	800
		可児市文化創造センター、市内小学校2校		実績値	426

13	フロントスタッフ研修	7/23 (日)・8/5 (日) 10/29 (日)	公演を支える劇場フロントスタッフの基礎知識と技術を学ぶ。 講師：星乃もと子	目標値	20
		可児市文化創造センター		実績値	19
14	劇場たいけんツアー	1月28日 (日)	演出：鈴木亜希子 (文学座) 出演：相川春樹 (文学座) キッズワークショップ参加者ほか	目標値	10
		可児市文化創造センター 小劇場		実績値	30
15	劇場に関わる人のための アーツ・マーケティング・ゼミ「あーとま塾 2023」	9/7 (木)・9/8 (金) 2/7 (水)・2/8 (木)	塾長：衛紀生 ゲスト：大澤寅雄、源由理子 モデレーター：落合千華	目標値	40
		可児市文化創造センター 音楽ロフト・美術ロフト		実績値	21
16	まち元気サポーター人材 養成事業	5月～3月	まち元気部：各種事業の補助、ラジオ出演、ワークショップ参加等 まち元気サポーター：勉強会 (6回)、 企画会議・準備 (6回)・実施 (1回)	目標値	85
		可児市文化創造センター		実績値	300
17	多文化共生プロジェクト 2023 アウトリーチ	8/20 (日) 8/26 (土)・2/4 (日)	作・演出：鹿目由紀 振付：堀江善弘 出演：応募による市民	目標値	100
		土田地区センター 可児市文化創造センター		実績値	189
18	アール紙芝居一座 市内巡回公演	9/10 (日)・10/14 (土) 11/18 (土)・3/24 (日)	演目：「はなのみち／おむすびころりん」、「おおきなかぶ／ももたろう」、「ながぐつをはいたねこ」	目標値	50
		中央児童センターほか		実績値	93
19	歌舞伎とおしゃべりの会	9/17 (日)・11/18 (土) 12/24 (日)・2/18 (日)	講師：葛西聖司、木ノ下裕一 ゲスト：林家正雀、市川右近	目標値	240
		可児市文化創造センター 映像シアター		実績値	265
20	新日本フィル・カフェ	6/3 (土)・12/24 (日)	出演：①ビルマン総平、山本珠里杏 ②野津雄太、岡北斗、瀧本千晶、 河村幹子、日高剛	目標値	60
		可児市文化創造センター 音楽ロフト		実績値	109
21	文学座俳優のキッズワーク ショップ	9/30 (土)・10/1 (日)	講師：高橋ひろし、磯田美絵 ピアノ：福井明日香 出演：応募による参加者 (9名)	目標値	20
		可児市文化創造センター 演劇ロフト		実績値	41
22	文学座 カフェ	1月27日 (土)	ゲストに文学座の俳優を招き、本読み 喫茶を実施。 ゲスト：相川春樹 (文学座)	目標値	20
		可児市文化創造センター ギャラリー		実績値	13
23	まちが元気になる処方箋	7月28日 (金)	出演：森合音、平田オリザ 籠橋義朗 (館長)	目標値	50
		可児市文化創造センター 映像シアター		実績値	43
24	みんなのディスコ	6月18日 (日)	MC：川名洋行 参加：ごちゃまぜアートの会、更生保護女性の会、岐阜大学、可茂学園、市民サポーター	目標値	60
		可児市文化創造センター 演劇・音楽・美術ロフト		実績値	100
25	ココロとカラダワーク ショップ	前期 4月～7月 後期 10～12月	講師：Ten seeds (劇・遊び・表現活動) 新井英夫チーム (ダンスアーティスト) アシスタント：板坂記代子、橋向祐季、 石川清隆、松岡恭子、山田久子	目標値	900
		可児市文化創造センター レセプションホールほか		実績値	829

26	児童・生徒のためのココロとカラダワークショップ	前期 4月～7月 後期 10～12月	講師：Ten seeds(劇・遊び・表現活動) 新井英夫チーム(ダンスアーティスト) アフタフバーバン(あそび環境 Museum) アシスタント：板坂記代子、橋向祐季、 石川清隆、松岡恭子、山田久子	目標値	1,050
		市内小中学校		実績値	1,376
27	おでかけ AG ライブ	6月13日(火)・14日(水) 7月7日(金)	演奏：あつ(シンガーソングライター)	目標値	240
		市内中学校		実績値	266
28	おでかけ落語会	6月6日(火)～9日(金)	出演：桂やまと	目標値	1,100
		市内中学校・高校		実績値	963
29	アーラみんなのピアノプロジェクト	月・木・金曜日のうち 指定日	講師：有志の地元ピアノ講師 および音大生(10名)	目標値	20
		可児市文化創造センター 演劇練習室ほか		実績値	22
30	まち元気プロジェクト普及事業(調査研究事業)	年1回発行	まち元気プロジェクトレポート：本プロジェクトの年間活動レポート冊子 配布先：市内の地区センター、学校、社会 機関、NPO 団体等	目標値	1,500
		可児市文化創造センター		実績値	2,000

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
事業計画に必要な構成要素が有機的に関連し、当初の予定通りに事業が進められているか。
ビジョンの「 3本の矢 」と、その下支えの まち元気プラットフォーム構築 を目指し、以下の通り取組んだ。 第1の矢 ：「 多様性と共創性を育み、感動と生きる希望を生み出す舞台芸術の創造発信 」 地域拠点契約を結ぶ 文学座 と 新日本フィルハーモニー交響楽団 、そして ala Collection シリーズ 、 シリーズ恋文 、 森山威男ジャズナイト など当館プロデュースで創造発信される高水準の芸術性が軸となり、さらにかに 寄席（納涼、初席） ※助成対象外など含めて、演劇、音楽、伝統芸能など幅広いジャンルをシーズンに合わせた鑑賞機会として提供したことで、市民に一年を通じた鑑賞の習慣化を促し、顧客の定着・拡大を図った。また単に鑑賞だけでなくバースデーサプライズや出演者との交流、アフターカフェ、市民サポーター制度などにより、アーティストと市民、ala職員、そして市民同士のつながりをも醸成させた。 第2の矢 ：「 人と人とがつながりあい互いにエンパイアメントされる豊かな地域社会の実現 」 歌舞伎とおしゃべりの会 、 森山威男ドラム道場 、 フロントスタッフ研修 など、人々の知的好奇心を刺激しつつ、人材育成も踏まえながら、文化芸術で人と人をつなぐ多様なプロジェクトを継続的に展開した。また新規事業として、子ども達が出演者、スタッフ、参加者、観客として全てのセクションに携わるこれまでにない 劇場たいけんツアー を文学座と共に創作し、劇場や舞台芸術の魅力を伝える効果を最大限に引き出した。 第3の矢 ：「 生きづらさや社会的孤立を予防・緩和する文化芸術によるセーフティネット 」 高齢者や乳幼児と母親を対象にした ココロとカラダワークショップ や障がい者をメイン対象にした みんなのディスコ 、 オープンシアターコンサート など、例年通り実施できたことで、社会的に弱い方々の文化芸術によるセーフティネットの役割として劇場を機能させた。またこれらの活動を支える支援者拡大に努めた まち元気プラットフォームの構築 として、新たに まち元気サポーター養成講座 を始動し、10人の受講生が文化芸術によるリンクワーカーの知識を習得しながら実践に取り組んだことで、受講者らの成功体験による自信と次年度に向けたモチベーションの持続性を引き出した。
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
第1の矢 ： ala Collection シリーズ 、文学座と新日本フィルハーモニー交響楽団との 地域拠点契約公演 、 シリーズ恋文 、 森山威男ジャズナイト は、 アーラのレパトリー としてさらに定着し、その安定したクオリティとこれまで培ってきた顧客や参加者との関係性を維持・拡大するための社会的・経済的意義として、観客交流の場「アフターカフェ」や「演劇サポーター制度」を導入し、鑑賞を軸とした市民のつながり作りを更に発展させた。「アンケート評価」では 90.1% という高い顧客満足度を維持している。また ala Collection シリーズ では、文化的意義として全国的にも珍しい 高校演劇作品 をリメイク上演したことで、高校演劇の魅力を引き出しながら、高校演劇作品の新たな発展や展開のモデルケースとして提示することが出来た。 第2の矢 ：市民参加の集大成となる オーケストラで踊ろう では、可児交響楽団の生演奏に合わせて公募で集まった市民総勢 48名 がコンテンポラリーダンスを踊る可児オリジナルの大型市民参加公演を実施した。演出・振付にダンス界の鬼才・ 康本雅子氏 を迎え、ドヴォルザーク交響曲第8番の自然を感じさせる壮大なメロディーと人間が人間を裁く「裁判」というテーマ性を見事に調和させた作品で観客を魅了し、 満足度 82% を達成したことから、文化的意義としてクラシック音楽とコンテンポラリーダンスを融合した水準の高い芸術性を市民参加で実現した意義深い活動であった。また、創作を通して市民ダンサー、可児交響楽団、市民サポーター、アーティストなどの多様なつながりと達成感を生み出したことから、社会的意義のある活動ともいえる。 第3の矢 ： 多文化共生プロジェクト は、日本、世界、そして私たちの身近なあらゆるところに存在する境界線『ボーダー』をテーマに令和4年度に創作した作品を市内各地で巡回公演が出来るコンパクトな作品にブラッシュアップし、市内公演を展開させた。ドキュメンタリー演劇の手法により、日本に住む在日外国人を取り巻く環境や文化や言葉の壁（ボーダー）をリアルに提示したことで、多文化理解を深める内容となった。社会的、経済的観点から例年通り ココロとカラダワークショップ 、 みんなのディスコ 、 みんなのピアノプロジェクト など、子供、高齢者、乳幼児と母親、障がい者など、各対象に特化した文化芸術による居場所を創出した。その結果、参加者満足度が 89.5% を達成。このように各種事業の継続が参加者の生活に豊かさをもたらしている。 まち元気プラットフォームの構築 ： まち元気サポーター養成講座 は、文化芸術で人と人をつなぐ地域のリンクワーカーとして多様な講師陣からノウハウを習得し、実践編として地域の子子ども達遊びを通じてつながりを作る「 ala まち元気あそび隊 」を受講者自らが企画立案し、実践した。その実践を通じて受講者同士の絆を深めながら、市民が主体となって「 まちを元気にする 」プラットフォームの基盤を構築した。

(2) 有効性

自己評価				
目標を達成し、アウトカムの発現は可能か。				
まち元気プロジェクトロジックモデル				
インプット	アクティビティ		結果（アウトプット）と成果（アウトカム）	
	対象	活動	アウトプット	最終アウトカム
人 アーティスト 舞台スタッフ ala 職員 アーラクルーズ 市民サポーター アーツワーカー	観客 ボランティア ala フレンド シップ会員 アーティスト スタッフ	第1の矢 ala Collection シリーズ 文学座 新日本フィル 森山威男ジャズ,他	①高水準の舞台芸術の鑑賞機会が増加 ②劇場のリピーターの増加 ③市民芸術活動の活性化 ④市民の居場所の増加 ⑤信頼できる人の増加 ⑥児童生徒の自己肯定感の向上 ⑦アーツワーカーの増加 ⑧多文化共生への意識啓発醸成 ⑨障がい者への理解促進 ⑩高齢者の孤立の減少 ⑪乳幼児の母親の孤立の減少 ⑫まち元気PJ支持者増加	夢や希望を持つ人の増加 新たな活動にチャレンジする人の増加 アーティストの担い手の増加 地域社会関係資本の増加 地域に貢献したい人の増加 互いに支え合える人の増加 地域で孤立を感じる人の減少 ステークホルダーとの連携強化
資金 指定管理料 助成金 寄付金	市民 アーツワーカー 先生 児童生徒	第2の矢 大型市民参加公演 ala 紙芝居一座 森山ドラム道場 学校アウトリーチ		夢や希望を持てる地域社会の実現 地域コミュニティの健全化と再生 地域の共生社会の実現
関係機関 可見市 教育委員会 ala 職員 あしながおじさんPJ 協賛企業 多文化共生機関 障がい者施設 高齢者施設 児童センター 子ども食堂	在日外国人 障がい者 貧困家庭 高齢者 乳幼児親子 子ども	第3の矢 多文化共生PJ みんなのディスコ 乳幼児親子WS 高齢者WS, 他 まち元気プラットフォームの構築 まち元気サポーター養成講座		持続可能な地域づくりの実現 地域の社会的孤立の減少

*以下に、結果（アウトプット）と成果（アウトカム）の指標と達成状況を記載しております。

アウトプット①高水準の舞台芸術の鑑賞機会が増加の結果に向け、指標を多様なジャンルの公演の実施とし、目標を5年間でのべ250公演以上実施に対し、実績がのべ352公演となり、達成。

アウトプット②劇場のリピーターの増加の結果に向け、指標をアーラフレンドシップ会員数とし、目標を5年間で15,000人に対し、実績が19,039人となり、達成。

アウトプット③市民芸術活動の活性化の結果に向け、指標を貸館事業数・制作サポート100%とし、目標を年間180公演以上・100%に対し、実績が143公演・100%となり、コロナ禍影響が残り量的に未達成。

アウトプット④市民の居場所の増加の結果に向け、指標をコミュニティ形成事業数とし、目標を5年間でのべ60事業以上実施に対し、実績がのべ50事業となり、コロナ禍影響が残り量的に未達成。

アウトプット⑤信頼できる人の増加の結果に向け、指標をワークショップ系事業の参加者によるアンケート評価とし、目標を「居場所になっている」が80%以上に対し、実績が91%となり、達成。

アウトプット⑥児童生徒の自己肯定感の向上の結果に向け、指標を児童・生徒向けのアンケート評価とし、目標を「居場所になっている」80%以上に対し、実績が91%となり、達成。

アウトプット⑦アーツワーカーの増加の結果に向け、指標をコミュニティアーツ・ワーカーの育成機会とし、目標を5年間でのべ40事業以上実施に対し、実績がのべ34事業となり、コロナ禍影響が残り未達成。

アウトプット⑧多文化共生への意識啓発醸成の結果に向け、指標をアンケート評価「多文化への理解が促進」とし、目標を80%以上に対し、実績が92.5%となり、達成。

アウトプット⑨障がい者への理解促進の結果に向け、指標を障がい者への理解を深める事業の参加者・鑑賞者アンケート評価とし、目標を「理解が深まった80%以上」に対し、実績が88%となり、達成。

アウトプット⑩高齢者の孤立の減少の結果に向け、指標を「ココロとカラダの健康ひろば」参加者アンケート評価とし、目標を「新しい仲間が出来た」90%以上に対し、実績が92%となり、達成。

アウトプット⑪乳幼児の母親の孤立の減少の結果に向け、指標を「親子ワークショップ」参加者アンケート評価とし、目標を「育児ストレスの軽減になった」90%以上に対し、実績が87%となり、未達成。

アウトプット⑫まち元気PJ支持者増加の結果に向け、指標をまち元気サポーター養成講座延べ参加者数とし、目標を年間で延べ120人に対し、実績が延べ参加人数140人となり、達成。

(3) 効率性

自己評価
アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。
<p>ミッション達成のためには継続こそが最大の効果を発揮すると考え、これまで通りビジョンにおける3本の矢を軸にしなが、これまでの取組みを継承しつつ、更なる発展に向けたアイデアを盛り込みながら、各目標に応じた<期間>と<経費>を設計し、以下の通り計画を遂行した。</p>
<p>第1の矢：ala Collectionシリーズでは、全国3カ所での出演オーディションという初の試みであったが、公募方法や審査、広報宣伝なども含めて、計画通り遂行し、本作品に適したキャスティングを実現した。また、クラシック界で最も人気の高い佐渡裕氏や反田恭平氏の出演コンサートを計画通り実施出来たことも、新日本フィルや反田氏と市民との信頼関係を生み出し、顧客満足度を最大限に引き上げた。文学座「五十四の瞳」では、可児市出身の出演者・川合耀祐氏を前面に打ち出した広報戦略で集客効果を高めた。シリーズ恋文も計画通り実施し、観客からの高い評価と座組の強い連帯感が芽生えたことで、出演者より次年度実施の希望が寄せられた。</p>
<p>第2の矢：オーケストラで踊ろう!では約3ヶ月に渡る稽古期間のため、稽古に出られない出演者が多数いたが、他の出演者が欠席者の代役を担ったり、自主稽古で出演者同士が教え合ったりするなど、出演者らが互いに助け合う関係性を築き上げたことで、公演後の達成感や絆を深める結果となった。劇場たいけんツアーは、8月の文学座俳優のキッズワークショップに参加の子ども達で創作した音楽劇のワンシーンを2月の劇場たいけんツアーに参加した親子を観客として本ツアーでのクライマックスに舞台上で披露するというチャレンジ企画であった。出演した子ども達は潑刺とした演技で見事に本番を成功させ、忘れられない舞台となった。またツアー参加の親子にとっても刺激的な体験となり、期間内で最大限の効果を上げた。森山威男ドラム道場や歌舞伎とおしゃべりの会、フロントスタッフ研修なども事業の継続性がアウトプットとしての効果を高めたといえる。</p>
<p>第3の矢：多文化共生プロジェクトは出演人数を絞っていく計画であったが、稽古を進めていく中で出演希望者が増えていき、結果的にその方々にもアンサンブルに加わってもらうなど、演出効果を高める内容となった。みんなのディスコでは、計画段階からボランティアスタッフが七夕をテーマに会場装飾や衣装づくりなどのアイデアを出し合い、運営に携わったことで、当日の演出効果を高めた。ココロとカラダワークショップやみんなのピアノプロジェクトなどでも事業の継続性が参加者の充実感や居場所としての効果を高めている。</p>
<p>まち元気プラットフォーム：まち元気サポーター養成講座はプラットフォームの土台作りとして前半は講義、後半は実践と1年を通じて地域人材の養成をしていく計画を打ち立てた。受講生は同じ目標を持つ仲間としてモチベーションを高めながら、リンクワーカーの知見と経験を積んだことから適切な期間であったといえる。</p>
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。
<p>要望時支出計 106,979,000円 決算時支出計 97,616,690円 予算決算差異 9,362,310円 (91.25%)</p>
<p>第1の矢：ala Collectionシリーズでは、可児滞任製作において当初の計画よりも各種プランナーの滞在日数や舞台スタッフ等の人数を創作状況に合わせ短縮、縮小できたことで、委託費や旅費交通費、宿泊費などを大幅に削減することが出来た。佐渡裕×新日本フィルハーモニー交響楽団では、アールだけのオリジナルプログラムにしたにもかかわらず、リハーサル方法を協議するなどし、佐渡裕氏の指揮料を当初の計画よりも大幅に削減することが出来た。文学座公演『五十四の瞳』、シリーズ恋文 vol. 13、森山威男ジャズナイト、ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団などは当初の計画通り、それぞれのアウトプットに対して適切に実施した。</p>
<p>第2の矢：オーケストラで踊ろう!では稽古欠席した出演者の自主稽古に振付アシスタントが急遽立ち会うなど、日数が増えたことで、その分のギャランティーや滞在費、交通費が増加した。また、演出効果として、出演者ひとりひとりの衣裳製作や小道具等が増えたことで、それらの制作経費が増加した。歌舞伎とおしゃべりの会は顧客のDM発送を全4回から3回に縮小した。新日本フィルカフェでは台風の影響で出演者2名が出演できなかった。文学座カフェにおいては劇場たいけんツアーと日程を合わせたことで旅費分を削減した。おでかけAGライブではアシスタント1名を減らし、経費が削減された。おでかけ落語でも学校側との調整の過程で、回数を見直し、経費を抑えた。各事業において、当初予定していた講師や出演者のPCR検査費を全て削減したことで経費の節減を図った。</p>
<p>第3の矢：多文化共生プロジェクトは昨年度作品をベースにした新演出であったため、稽古期間の縮小や舞台小道具などの経費を抑えた。ココロとカラダワークショップは講師の体調不良により後期日程の講師分を他のグループに講師委託したことで、経費の削減となった。みんなのピアノプロジェクトは年間400コマ想定から324コマとしたため、講師料および調律代が抑えられた。児童生徒のためのココロとカラダワークショップは当初の計画通り実施した。</p>
<p>まち元気プラットフォーム：まち元気サポーター養成講座は当初計画した予算通り実施され、経費が掛かったのは前半の講師料部分で、特に後半の実践編では受講者らが自らアイデアを出し合い、少ない経費で子ども達が遊べる楽しい場を作り上げることが出来たため、今後の市民主体で取り組むモデル的な事業となった。</p>

(4) 創造性

自己評価

事業計画の内容が、獨創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。

劇場・音楽堂等の資源（キーパーソンの存在）

私たちが推進する社会包摂型劇場経営のミッションは、文化芸術で希望と活力の「つながり」を社会に涵養していくことである。「つながり」とは文化芸術活動の「継続性」の中で醸成していくものであり、ビジョンで示す3本の矢の「継続性」こそがミッション達成の最重要課題である。そこで、芸術面の責任者として3つのアプローチを踏まえながら、地域の実情を熟知し、「演劇、ダンス系兼コミュニティ系：澤村潤」「音楽系：坂崎裕二」の異なる芸術的知見を兼ね備えたプロデューサーを配置することで、ビジョンで示す第2、第3の矢における地域のニーズや課題に向き合うプログラミングを可能としている。また第1の矢では、これまでの取組みで培ったアーティストとのコネクションや英国リーズプレイハウスとの太いパイプが芸術性の基盤となって高水準の作品を生み出している。

◇フランチャイズ団体・提携団体の存在

これまでに引き続き、国内の提携団体として、当館はそれぞれ高水準な芸術性と多様な文化芸術人材を持つ**新日本フィルハーモニー交響楽団と文学座の2団体**と「地域拠点契約」を結んでいる。これにより優れた公演のみならず、地域に合わせたきめ細かいコミュニティアプローチを可能としている。また**英国リーズ・プレイハウス（LP）**との間で2015年3月に締結された「グローバル提携（人事交流および国際共同制作に関する提携）」があり、近年はコロナの影響で共同事業が途絶えていたが、令和6年度には共同事業を再開させる。

①獨創性：森山威男ジャズナイトは可児市在住で世界的に知られるジャズレジェンドドラマー・森山威男氏を中心に据えたライブである。フリージャズは通常ライブハウスで行うことが一般的だが、劇場という贅沢な空間で繰り広げる大迫力のサウンドはここでしか見られない唯一無二のライブであり、全国のジャズファンが集まる。今回のテーマは森山威男ヒストリー。森山氏自身が幼少時代から世界で活躍するまでの変遷を追いながら、その時々の名曲を披露した。それは森山氏のエネルギッシュな演奏スタイルと脱力した茶目っ気たっぷりの語り口とのギャップで観客を虜にした。そして何よりその存在から発せられる人間味の深さと経験に裏打ちされた言葉の説得力、さらに圧倒的な演奏パフォーマンスで、型にはまらない生き方や画一的でない人間の魅力を伝えた。これらのことから他に類を見ない<獨創性>に溢れた当館独自の創造活動といえる。

オーケストラで踊ろうでは前述の通り、生のオーケストラで市民がコンテンポラリーダンスを踊る当館オリジナルの大型市民参加公演である。振付の康本雅子氏の天性のセンスで市民ひとりひとりの個性そのものを芸術性として昇華させた。その総勢48人の市民ダンサーによるアンサンブルは「裁判」をテーマにドヴォルザーク交響曲第8番の荘厳な音楽性と、そこに登場する裁判官、陪審員、弁護士、検察官、書記官、清掃員になぜかパンダも加わり、一癖も二癖もある法廷ドラマとして提示した。その脈絡がないようである突飛な物語性が人間の不可思議さや可笑しさを引き出した。これらのことから<獨創性>に満ちた活動であったといえる。

シリーズ恋文 vol.13は、恋人、夫婦、親子など、年齢や関係性も様々な恋文を通して、ラサール石井の巧みな演出で、ピアノの音色が広がる豊かな空間に、中村雅俊と真野響子が語る書き手としての主人公らがまるで目の前にいるかのように立体的なドラマとして浮かび上がらせた。恋文には、飾らない素直な言葉と感情が溢れ、人々の心を揺さぶる力強さがある。孤独・孤立が社会問題とされ、人とのつながりが希薄化している今だからこそ、恋文で描かれる人間のストレートな想いが、どんなに美しく、温かいものかを伝えた。このように朗読という手法を取りながらも極めて演劇的な<獨創性>を備えている。

②新規性：多文化共生プロジェクトは外国籍居住率が8%という可児市において、様々な国籍の住民がドキュメンタリー演劇の手法を用いて、日本人には知り得ない彼らの心情や背景にあるドラマを演劇作品として提示することで、在日外国人への理解を深めながら、外国人と日本人の交流を促す全国的にも珍しい取り組みとして注目を浴びている。少子化により外国人労働者が今後益々増加する日本社会だからこそ、本プロジェクトは多文化共生の新たな局面を切り開く<新規性>を帯びた先駆的な創造活動である。そして今回はその発展型として、より多くの市民に鑑賞機会を提供するため、昨年度創作した作品『ボーダー』をどこでも上演できる形態にブラッシュアップさせ、可児市近隣の2カ所での上演を実現させたことも他にない<新規性>といえる。

みんなのディスコは、障がいの有無、国籍、性別、世代などあらゆる垣根を越えて、音楽でひとつにつながるプロジェクト。この目的に共感している地元アーティストやボランティアの市民が当日の飾りつけなどの準備や盛り上げ企画など運営に大きく携わっている。この事業目的への共感性のネットワークを多くの市民に広げていくことで、運営に携わるボランティアの増加と事業拡大につながると共に、そのことが多文化共生プロジェクトと同様に新たな事業運営としての<新規性>を備えている。またこの市民ボランティアとの協同におけるノウハウを広く公開することで、劇場・音楽堂等における<先導性>の役割を果たしている。

③先導性：ala Collection シリーズ vol.14『フットボールの時間』は、これまでに例のない全国高校演劇大

会での最優秀作品を1時間という枠に捉われないプロの作品としてリメイク上演した。大正時代の女学生を主人公にフットボールに打込む彼女らが「女がボールを蹴るなんてはしたくない」とフットボールをする権利を先生や家族から奪われるオリジナル台本であるが、今回の潤色ではフットボールを指導する先生を主人公に、オリジナルにはないカメラマンを志す女性を登場させ、その女性と先生と女学生、それぞれの心情を重層的に描くことで、男尊女卑という時代の圧力で女性の権利が理不尽に奪われていく模様を強烈に印象付けた。そしてラストの100年後に現れる女子サッカー選手と女性カメラマンの姿はまさに希望の象徴として際立たせ、観客を魅了した。このように本公演は可児、東京、全国5カ所での巡回公演（助成対象外）を実現し、各地で高評価を得たことで、高校演劇界と日本演劇界をくつなぐ新たな発展・展開の可能性を広げた芸術水準の向上の直接的な牽引力となりうる極めて稀な成功事例といえる。その＜先導性＞を導いたのが潤色・演出の瀬戸山美咲氏と本事業の企画力である。本企画はストレートプレイでは珍しく全国3カ所での出演オーディションで女学生役4名を選出した。約200人もの応募があり、この才能ある若手俳優らとの多くの出会いこそが、日本演劇界の発展に希望を示したといえる。またオーディションが無ければ決して出会うことのない俳優4名が澁刺とした演技で物語に瑞々しさと躍動感を与えた。そして本事業は全国的にも珍しい第一線で活躍する俳優、スタッフらが可児市での滞在製作として市民サポーター制度を採り入れ、市民に支えられながら高水準の作品を生み出していき、まさに地域力を活かした創作活動として＜独創性＞と＜新規性＞を兼ね備えている。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

ala Collection シリーズ vol.14『フットボールの時間』 ○新聞や専門誌での批評として、読売新聞の担当記者5人が選ぶ今年の3本という特集で、本作品が記者2人から選ばれた。2人に選ばれた作品は、数ある作品の中で本作品のみであった。（12/19 読売新聞夕刊に掲載）また、劇評として「自分の歩む道を自ら考える心や、その夢に挑戦するチャンスを押しつづすものの正体は何か。高校生たちがキックしたボールを受け取った演劇人たちが、この舞台を生み出したように私たちは考えなくてはいけない。（増田愛子）」（11/9 朝日新聞より抜粋）と評価された。また「高校演劇にヒットの熱風」と題した記事で「『高校演劇も甲子園ぐらいすごいんだぞ、と注目される糸口になれば』と文化系部活動の地位向上を願う。（井上秀樹）」（R6.5/7 朝日新聞より抜粋）と高校演劇をプロ作品化したことが注目を浴びた。日本劇団協議会3/31発行のjoin 私が選ぶベストワン 2023 では伊達なつめ氏、森重達裕氏（読売新聞文化部）、横溝幸子氏（演劇評論家）の3名から本作品が選ばれた。読売新聞10/28の全国紙で「現地滞在型の演劇製作『地方から発信』高い評価」と本活動が評価された。社会学者の上野千鶴子氏「泣けた。泣けました。」俳優の伊藤紗莉氏「号泣した！」などSNS上で多くの著名人らの絶賛の声があがり、演劇界において本シリーズの評価の向上と当館の存在感を高めた。

オーケストラで踊ろう！裁&判 ○観客アンケートとして「市民とオーケストラのアンサンブル！このために集まった年代も様々の市民が作り上げた舞台に感動した。50代女性」や「想像を遥かに超えた演出に感動の嵐です。40代女性」「このような作品は初めてだが、音楽とダンスで物語が紡がれており、どきどきわくわくしながら、楽しく観ることが出来ました！30代女性」など、芸術性を評価する声が多数寄せられた。

森山威男ジャズナイト ○観客アンケートとして「ライブの演出内容で今回が最後に成るのかな？と、思いましたが来年も有るとのこと。ホッとしました。内容が濃い、演出で大満足。60代男性」「毎年一番の楽しみです。間違いなく最高のコンサートです。ぜひ続けてください！70代男性」「来年も楽しみにしてるんだから！毎年このコンサートに来られる幸せを私に！女性」と絶賛の声と次回を望む声が多数寄せられた。

多文化共生プロジェクト ○観客アンケートとして「外国籍の人々が感じているボーダーをよく理解することができました。この演劇は日本の人々も多く見てもらいたい。60代男性」「自分の体験をしたからこそ、伝える気持ちが強くて、より心に残りました。10代女性」など多文化共生を理解する声が多数寄せられた。また10/2「広場ラボ＜多文化とアート編＞」（主催：愛知県芸術劇場）、12/19 静岡文化芸術大学多文化・多言語教育研究センター主催フォーラムなど、ゲスト登壇者として依頼され、本活動を紹介した。他にも多文化研究機関からの取材や中日新聞（9/26）に本活動が掲載されるなど、本活動の社会的意義が評価されている。

みんなのディスコ ○参加者アンケートとして「とにかく楽しかった。知らない人と仲良くおどれました。ハッピーな気分！！30代男性」「一緒に参加した子供は知的の障害がありますが初めての経験で、みなさんの思いっきり楽しんでいる空気感を感じて自然に溶け込んでいって、キラキラした目で楽しそうにしていました！40代女性」と嬉しい声が多数寄せられた。参加したドラッグクイーンからは「凄く楽しかった！また出たい！」とのコメントをもらった。7/2 岐阜新聞で本活動の内容や意義が紹介され、社会的価値が評価された。

当館が提唱する社会包摂型劇場経営を全国に広げる動きとして令和5年度より＜認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ＞が発起した文化芸術による人々の居場所作りを全国に広げていくクリエイティブリンクワーカー協議会のアドバイザーとして当館の見聞を役立てている。また、公文協の体験型／インクルーシブPT（仮称）のメンバーとして当館が目指す劇場モデルの共有を図り、インクルーシブな事業を全国の公立文化施設に広げていく後押しをしている。公文協の事例調査の報告書では、みんなのディスコが取り上げられ、そのノウハウを公開するなど、当館の社会包摂型劇場経営が大きな注目を浴びている。

(5) 持続性

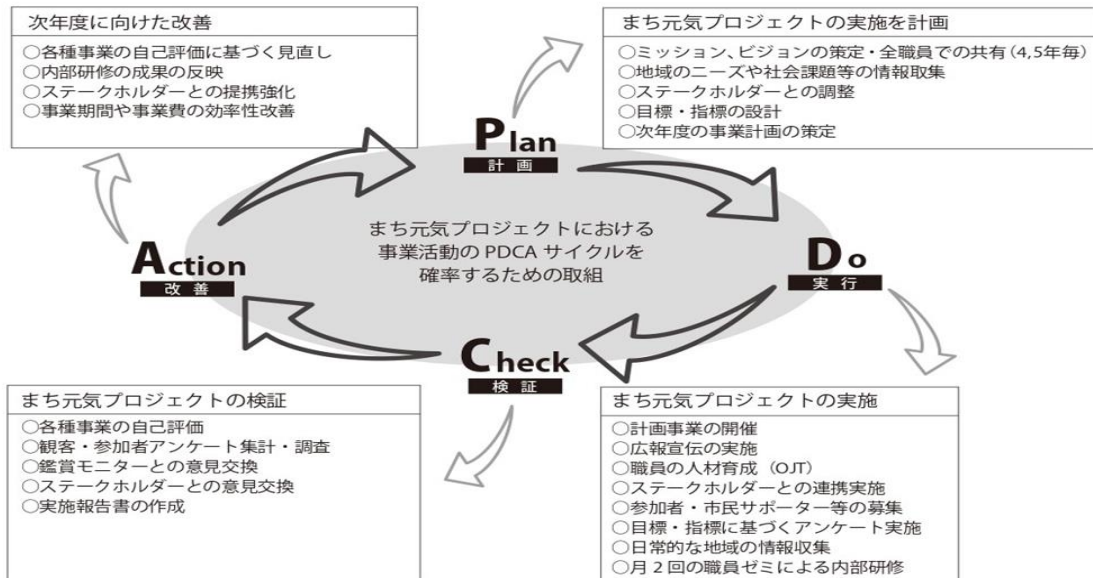
自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

まち元気プロジェクトのPDCAサイクルは以下の図表の通りである。また、組織体制の強化および持続的発展には職員同士のチームワークと能力向上が最も重要である。そこで月1回の「職員ゼミ」を設け、全職員での事業ミッションの共有および戦略立案に必要な知見を深めることで、全ての職員が理論と実践の課題やギャップを言語化し、それぞれが主体的に所掌業務の検証・改善案を提言できる機会を設けている。



まち元気プロジェクトとしての取組（PDCA）



持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

文化芸術基本法の改定から教育、福祉、まちづくり、観光など、文化芸術の役割は多岐にわたり、劇場・音楽堂等にはその一端を担うことが期待されている。それを受け、私たちはミッションの実現に向けて、これまでの5年間では描けなかったビジョンにおける「持続可能な地域の支え合いのネットワーク（まち元気プラットフォーム）の構築を今後の5年間の最重要課題と位置づけ取り組んでいる。なぜなら、私たちの活動の支持者や協力者、行政、学校、福祉施設、企業などが中心となって、人々の「えがお」をつなげていく「まち元気プラットフォーム」がビジョンで示す3つのアプローチの運営や資金調達の下支えとなり、地域の網の目となって人々の活力とつながりを生み出していくからである。英国における「社会的処方」の考え方を応用したこのネットワークの構築こそが持続可能な社会包摂型劇場経営の戦略的ツールそのものであり、公共劇場の先導役としてそのノウハウを全国の劇場・音楽堂等に発信していくことで、劇場を拠点とした「誰一人取りこぼさない文化芸術による支え合いのネットワーク」を全国規模で構築していくことが期待できる。

